

氏名(本籍)	鈴木規之(東京都)
学位の種類	博士(社会学)
学位記番号	博甲第1,043号
学位授与年月日	平成4年6月30日
学位授与の要件	学位規則第5条第1項該当
審査研究科	社会科学研究科
学位論文題目	タイ農村の社会変動とオルターナティブな発展
主査	筑波大学教授 駒井 洋
副査	筑波大学教授 佐藤 守弘
副査	筑波大学助教授 小野澤 正喜

## 論文の要旨

本論文は、アジアNIES化への途を歩みつつあるといわれるタイ国の農村を対象として、資本主義の発展にともなう商品化の浸透がどのように農村社会を崩壊させ、それに対応するためのオルターナティブな発展戦略がどのような意義を持っているかを明らかにすることを目的として執筆されたものである。

本論文の全体的構想をみると、まず世界経済システムに包摂された農村における商品化について、①通勤労働力としてのヒトの商品化、②外国出稼ぎ労働力としてのヒトの商品化、③土地の商品化という3つの理念型が設定され、そのような商品化が展開している農村社会のそれぞれについて、不平等化の進展、消費主義の蔓延、地域文化の衰退、環境問題の発生という視点からその崩壊の様態が検討され、さらに商品化の波のもとでオルターナティブな発展戦略を採用する農村についての考察がくわえられている。

本論文は7つの章からなっている。

第1章では、商品化の概念を基軸とする農村の社会変動の理論が提示される。商品化の理論としてI. ウォーラーステインに代表される世界システム論が批判的に検討されるとともに、モノ、ヒト、土地の商品化のプロセスの理論的整理がなされ、さらにタイ農村の歴史の変動が3つの段階に区分されて分析される。

第2章から第4章では、商品化の3つの理念型を代表する典型的な農村がとりあげられ実証研究がなされている。通勤労働力としてのヒトの商品化を扱う第2章では北タイのチェンマイ県パーパイ村が、外国出稼ぎ労働力としてのヒトの商品化を扱う第3章では東北タイのウドンタニ県パンドン村が、土地の商品化を扱う第4章では東部タイのチョンブリー県トゥングスカラー村がそれ

ぞれ対象とされ、商品化のプロセスおよび農村社会の崩壊の様態が具体的に検討されている。

第5章では、第2章から第4章までの実証研究から得られる暫定的結論が示されるとともに、とりわけ不平等化の進展にともなう消費的欲望の異常な昂進が指摘される。

第6章および第7章はオルターナティブな発展の検討に当てられている。第6章では、商品化に対抗する理論としてタイで注目されているオルターナティブな発展論の概要が紹介され、欲望からの脱却の重要性が提示される。第7章では、このような発展を指向する実践例として北タイのランブーン県シーブアバーン村の事例が検討される。この村では欲望にたいする認識とそれへの対応が薄弱であったため、さまざまな実験的実践もオルターナティブな発展を招来できなかったのである。

## 審 査 の 要 旨

本論文の主要な成果としては、資本主義の浸透にともなってタイ農村で進展しつつある商品化のプロセスの主要な理念型の設定および商品化の進展にともなう農村社会の崩壊の理論的把握に成功するとともに、それに対処するためには欲望の問題が重要であることを指摘したことがあげられる。この成果は、単にタイ農村のみに留まらず第三世界一般の農村にも適用しうる射程距離をもっている。

さらに、本論文の大きなメリットとしては、4つのタイ農村において、数年にわたり徹底的なフィールドワークがおこなわれていることをあげることができる。これは著者の卓越したタイ語能力をもとにしてはじめて可能となったものである。

本論文の弱点をあえて指摘すれば、オルターナティブな発展の理論化が若干不十分であり、また商品化の理念型と全般的経済的プロセスの関連の解明にやや不明確な点があることなどがあげられるが、本論文の成果を否定するほどのものではない。

よって、著者は博士（社会学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。